□アフターサービス

■サービスを依頼される前に

サービスを依頼される前に23ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」および24ページ「サービスをお申しつけになる前に」の項を見て、もう一度ご確認ください。

確認の上それでも不具合な場合は、ご自分で修理なさらないで、お買い求めの販売店にご連絡ください。

●アフターサービスをお申しつけいただくときには、次のことをお知らせください。

①形式名……OVF-360D　　③道　順……付近の目印も

②現　象……できるだけ詳しく　　④おところ・お名前・電話番号

■転居される場合

ご転居によりお買い求めの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。

ご転居先での日立家電品の取扱店を紹介させていただきます。

なお、周波数の違う地域へご転居の場合は燃焼用空気量の調整が必要です。

■保　証

●この商品は保証書付きです。

保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますから、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間はお買い上げの日から1年間です。

なお、保証期間中でも有料となることがありますので、保証書をよくお読みください。

●保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

■補修用性能部品の保有期間について

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後6年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

●性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合は、お買い求めの販売店か、別紙(黄色用紙「ご相談窓口一覧表」)のご相談窓口にお問い合わせください。

日立家電販賣株式會社
日立熱器具株式會社

〒105 東京都港区西新橋2－15－12　電話(03)502－2111

NB22067-Aア 07B(M)

取扱説明書・注意書

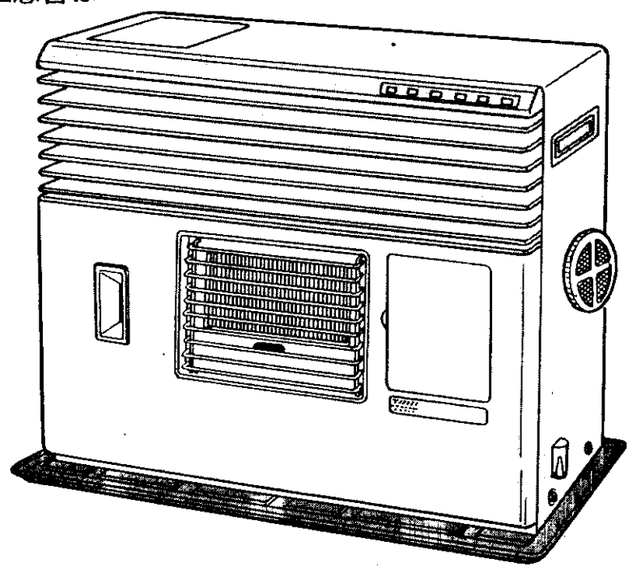
日立石油ファンヒーター

〈開放式石油ストーブ〉

OVF-360D形

使用時には、この取扱説明書・注意書をよく読んで、ストーブを正しく使用してください。

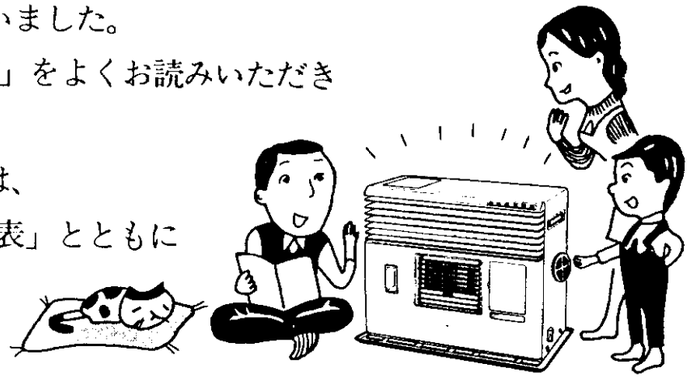
なお、この取扱説明書・注意書は必ず保存してください。



HITACHI

正しく使って上手に節約

このたびは、日立石油ファンヒーターをお求めいただき、
まことにありがとうございました。
この「取扱説明書・注意書」をよくお読みいただき
正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は、
「保証書」「ご相談窓口一覧表」とともに
大切に保存してください。



目次

▣ご使用にあたって……2ページ
▣特に注意していただきたいこと……3
▣使用する場所……8
▣各部の名称……9
▣使用方法……11
①使用前の準備……11
②給　油……12
③点火前の準備と確認……13
④点火……13
⑤室温調節と火力(熱量)調節……14
⑥消　火……15
⑦点火タイマーのご使用方法……16
⑧ランプ表示とお知らせブザーについて…17
▣安全装置……19
▣日常の点検・手入れ……20
▣故障・異常の見分け方と処置方法……23
▣サービスをお申しつけになる前に……24
▣部品交換のしかた……25
▣保管(長期間使用しない場合)……25
▣仕　様……26
▣アフターサービス……27

□ご使用にあたって

■燃料は新しい白灯油を使いましょう

1 不良灯油(変質灯油・不純灯油)は、ストーブの大敵です。

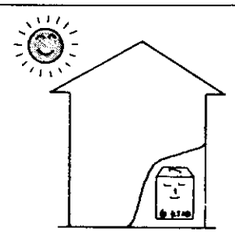
☆変質灯油……
- 昨シーズンからの持ち越し灯油。
- 直射日光のあたる場所に保管してあったもの。
- 黄色味がかったり、すっぱいにおいのするようなもの。
- 高温の場所に保管してあったもの。
- 容器のふたを外したまま保管してあったもの。
- ポリタンクに入れて保管してあったもの。

☆不純灯油……
- ガソリン、シンナー、食用油、機械油、重油などが、ほんのわずかでも混入した灯油。
- 水やごみの混入したもの。

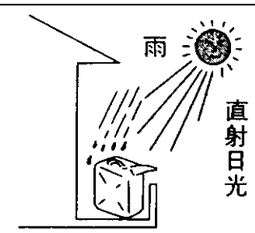
●このような灯油を使用すると、点火しなくなったり、異常燃焼の原因となります。

2 白灯油は保管にもじゅう分注意してください。

○ 良い保管
- 専用の金属製かんでしっかりふたをして保管。
- 直射日光、雨水のあたらない所、火気のない冷暗所へ保管



× 悪い保管
- 白いポリタンクで保管。
- 直射日光、雨水等のあたる所へ保管



■次の点にも注意しましょう

1 ご使用中は、1時間に1～2回は、窓をあけるなどして、お部屋の換気をしてください。

2 おやすみになるとき、外出されるとき、長時間部屋を離れるときなどには、必ず消火してください。
大きな事故は、就寝時の使用や人がいないときに起こりがちです。

3 幼小児、お年寄り、心身の不自由な人達だけでは使用しないよう、周囲の方がじゅう分注意してください。

4 特殊な使い方（養蚕室、温室など人のいないところでの使用、あるいはストーブを改造して他目的に使う）は、火災等の危険性がありますのでおやめください。

5 お手入れは大切です。日常の点検・手入れを行って、快適にお使いください。
また、シーズン初めや、おしまいになるときも、お手入れをしてください。

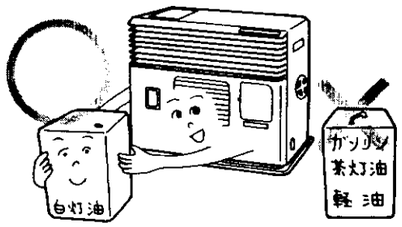
6 ストーブは倒さないでください。
万一、ストーブを倒した際は、おちついてすぐに起こし、周囲にこぼれた油をきれいにふきとってください。

□特に注意していただきたいこと

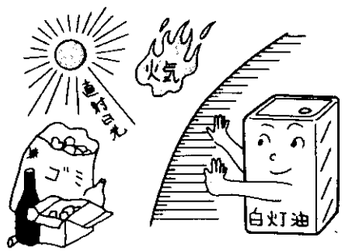
ストーブの使用、灯油の取扱いで、次の点は特に注意

■燃料

1 白灯油(JIS 1号灯油)を必ずお使いください。
汚れた油や変質灯油、水の混じっている灯油、ガソリンなどは、絶対に使用しないでください。
なお、揮発性の高い燃料(ガソリン、ベンジン、シンナー等)は、引火・爆発の危険があります。
絶対に使用しないでください。

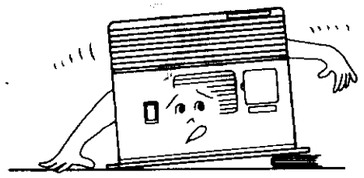


2 白灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

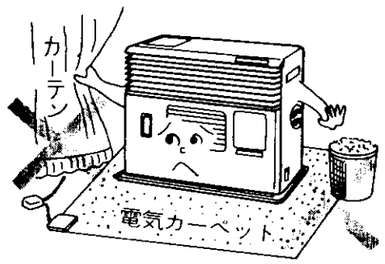


■使用する場所

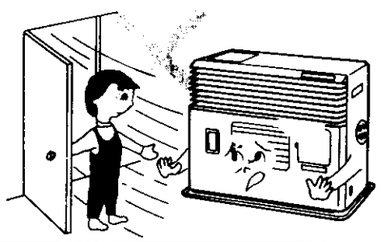
1 水平な場所で使用してください。
振動の激しいところでは、使用しないでください。(13ページ参照)



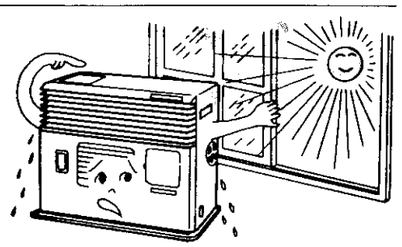
2 カーテンや燃えやすいもののそばなどでは、使用しないでください。
電気カーペットなどの他の暖房器具の上に設置することもおやめください。
火災の原因になることがあります。
(8ページ参照)



3 部屋の出入口などで人の通るところや、風のあたるところでは、使用しないでください。
異常燃焼したり、消火することがあります。



4 直射日光のあたる場所や、温度の高い場所では使用しないでください。
ストーブや給油タンク内の油の温度が上がりすぎて危険ですし、また給油タンクの空気膨張により灯油があふれることがあります。



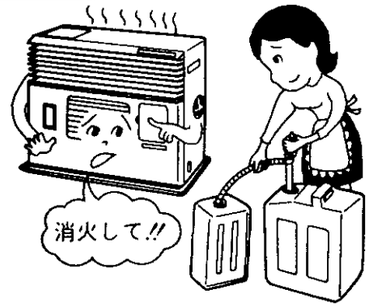
■給油

1 給油は必ず消火してから行ってください。
●給油はストーブから離れた場所で行ってください。

2 こぼれた灯油はよくふきとってください。

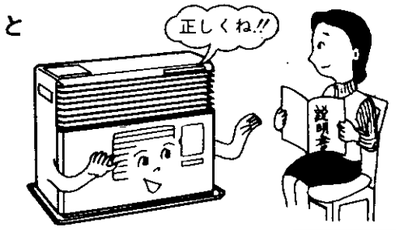
3 給油口口金は、確実にしめてください。

4 給油タンクは正しく静かに入れてください。

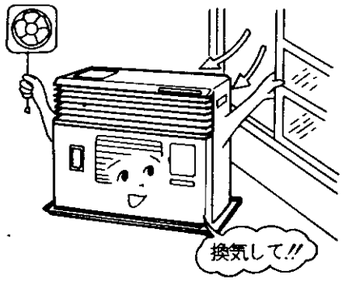


■使用①

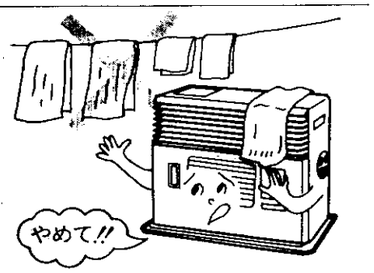
1 点火は順序正しく行い、正常に燃焼していることを確認してください。
(13ページ参照)



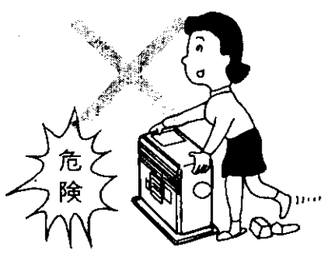
2 使用中は、時々(1時間に1～2回)換気して、新鮮な空気を補給してください。
酸素が不足すると不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して危険です。(中毒になる恐れがあります)
●可燃性ガスの発生しない場所または溜まらない場所で使用してください。
●換気しづらい部屋(例えば二重窓)では、部屋の入口等の開閉で換気してください。



3 衣類の乾燥などには使用しないでください。
衣類などをストーブの上に置いたりすると、温風の出口がふさがれてしまい、ストーブ内に熱がこもり大変危険ですし、衣類が落下して火がつき、火災になることがよくあります。
また、狭いところやカーテンのそばでは使用しないでください。



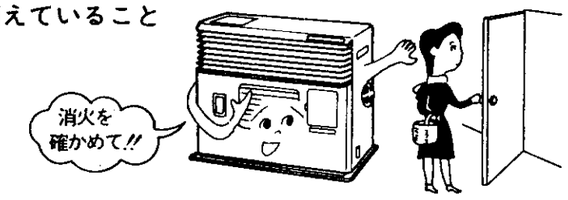
4 火のついたまま持ち運ばないでください。
転倒すると危険です。
なお、ストーブを移動させるときは、必ず消火してから、傾けないよう静かに持ち上げて運んでください。



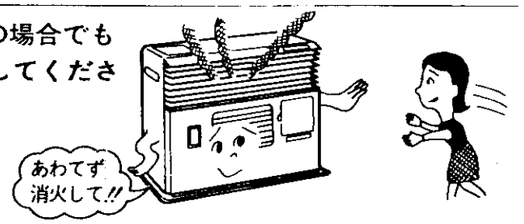
特に注意していただきたいこと―つづき―

■使用②

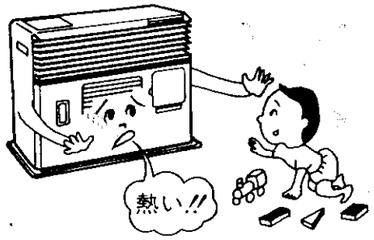
5 外出時や就寝時は、火が完全に消えていることを確かめてください。



6 万一異常燃焼を起こしたときや緊急の場合でもあわてずに運転ボタンを押して消火してください。(15ページ参照)



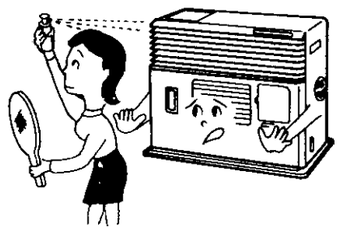
7 燃焼中は、温風吹出口部やガラス面とその周囲(赤色部分)は高温になりますので、やけどにご注意ください。



8 ヘアスプレーなどの引火物を近くで使用しないでください。引火の危険があります。

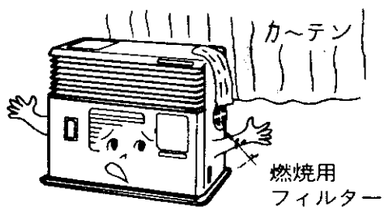
●理・美容院、メッキ・塗装工場、電子部品組立工場、冷凍機製造工場、印刷工場、クリーニング店、繊維関係の工場などで使用することはおやめください。

●スプレーや薬品等に含まれるハロゲン系化合物等の影響で、不完全燃焼や途中消火、異常なサビなど故障の原因となる場合があります。



9 本体側面の燃焼用フィルター部分をふさがないでください。

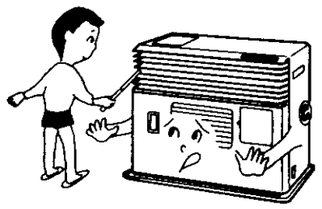
衣類やカーテンなどでふさがれると、炎が小さくなり、不完全燃焼をしたり、運転が停止することがあります



10 温風吹出口に、紙、布、プラスチックなどの異物を入れないでください。

(特にお子様がおもちゃ等を入れることがありますので、ご注意ください)

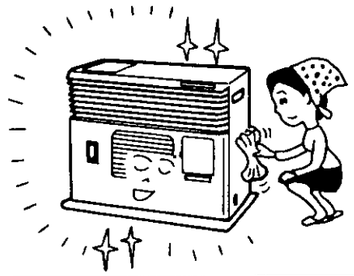
●こげてにおいがしたり、温風の吹出しが阻害され、異常過熱します。



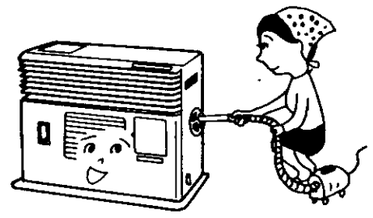
■日常の点検・手入れ

1 日常の点検・手入れは、必ず行ってください。
(20~21ページ参照)

2 故障・破損したものは使用しないでください。
不完全な修理は危険です。
万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店に連絡してください。



3 燃焼用フィルターは、1週間に1回以上は掃除してください。
ストーブ側面にある燃焼用フィルターが目詰まりすると炎が小さくなり不完全燃焼の原因となったり、運転が自動的に停止することがあります。
また、燃焼用フィルターを外して掃除した場合は、必ず元どおりに取付けてください。
なお、燃焼中は絶対に燃焼用フィルターを外したり、掃除したりしないでください。



■その他のご注意

1 ストーブの上に花びん、やかん等、水のこぼれやすいものや、また熱に弱いものはのせないでください。
ストーブ内に水が入ると、腐食するばかりでなく、漏電や火災の危険があります。

2 ストーブに腰かけたり、重いものをのせたりしないでください。
やけどをしたり、ストーブが変形するおそれがあります。

3 加湿器は、基本的に併用の必要はありません。
このストーブは、灯油の燃焼によって相当量の水蒸気が発生しますので、一般的には加湿器を併用する必要はありません。
特に超音波式や遠心式の加湿器を使用しますと、水に溶けているカルシウム分等が燃えて炎の色が赤くなりますが、異常ではありません。

4 初めてご使用になるとき、塗料の焼けるにおいのすることがあります。
室温調節つまみを目盛「34」にして、塗料の溶剤がなくなるまで30分ほど窓をあけて、運転してください。

5 灯油には水が混入していることがよくあります。
水の混入した灯油を使用しますと、製品の性能が落ちたり、運転できなくなったり、製品寿命を縮めることになります。水の混入には十分注意してください。

6 燃焼中は温風吹出口部の掃除はおやめください。塗装をいためることがあります。

特に注意していただきたいこと―つづき―

ガラス面について

1 **正常燃焼時でもガラス面がときどき黄色く光ることがあります。**
炎に若干赤火が入ることがあり、これが映るためで、異常ありません。

2 **ガラス面の赤熱度合は、器具によって多少異ります。**
また弱燃焼時には火力が弱くなるため暗くなります。

3 **ガラス面に物をぶつけたり、水をかけたりしないでください。**
ガラスが割れます。

4 **ガラス面が割れたままでは、絶対に運転しないでください。**
異常過熱して危険です。

5 **長時間使用するとガラス面が白くにごってきますが、異常ではありません。**

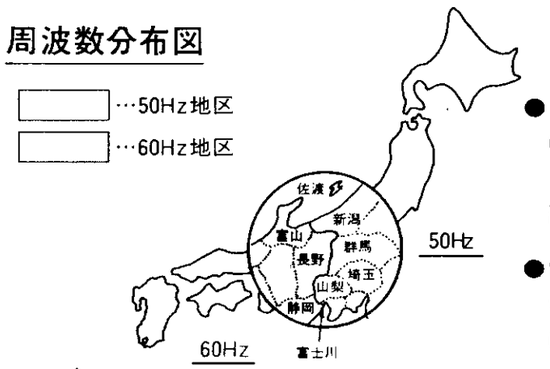
赤熱体について

器具内(ガラス面の内側)にある赤熱体は、長時間ご使用になると変形することがあります。
この赤熱体は消耗部品ですので、変形が大きくなりましたらお買い求めの販売店に依頼して交換してください。

周波数(Hz)調整について

電源周波数が60Hzの地区でご使用になる際は、燃焼に必要な空気量の調整（空気量調節板の調整）が必要です。
必ず11ページにしたがって調整を行ってください。

周波数分布図



- 日本各地の電力会社が送る電気には、60Hzの周波数と50Hzの周波数とがあります。おおよそ富士川を境にして、以西は60Hz、以東は50Hzです。
- 電源周波数がわからない場合は、お買い求めの販売店か、最寄りの電力会社にお尋ねください。

■使用する場所

ストーブを安全に、より効果的に使用するためには、場所の選定が大切です。

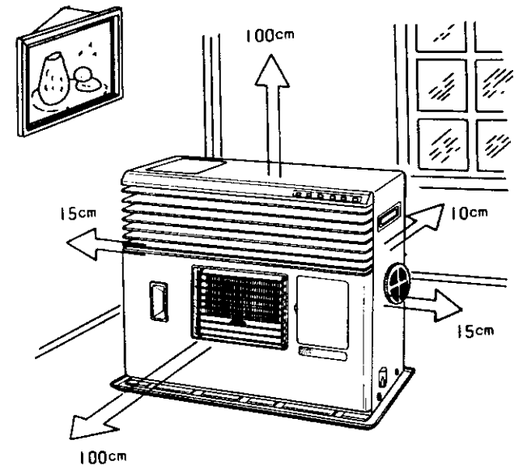
■安全に使用するために

1 **ストーブは右図に示すような寸法内に可燃物や障害物のない場所でご使用ください。**

2 **可燃性のマントルピースでの使用は、禁止されています。**
なお、防火処置をしてある場合でも右図の寸法は必ず守ってください。
守っていただけないと、火災の原因となるおそれがあります。

3 **不安定な物を乗せた棚などの下や、ほこりの多い場所では使用しないでください。**

4 **電源コンセントの位置も考慮してください。**



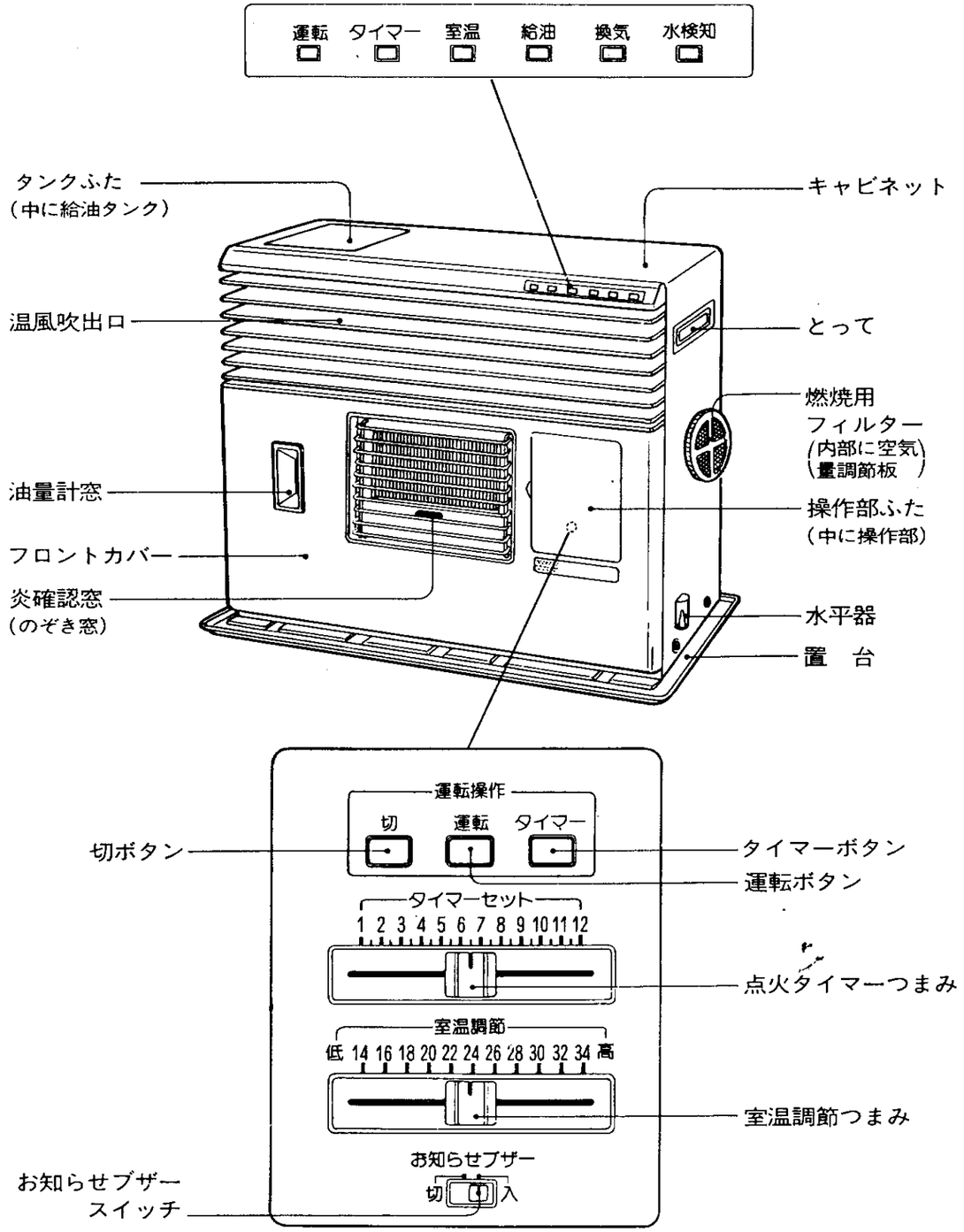
■効果的に使用するために

1 **このストーブは、ルームサーモが内蔵されています。**
室温調節つまみを「高」⟷「低」のお好みの位置にセットすれば、自動的に火力調節を行って、室温を調節します。
室温調節つまみを上手に使って、ムダな暖房などしないようお使いください。

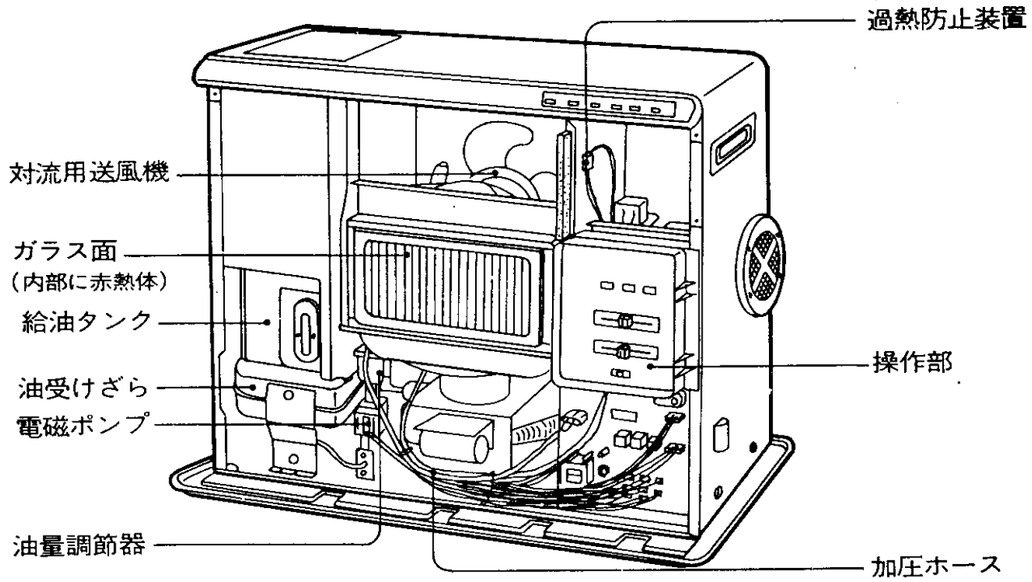
2 **その他次のようなことにも注意してお使いいただくと、より効果的な暖房ができます。**
①日中は極力太陽の光を家の中に入れ、夕方は早目に窓やカーテンを閉めてお部屋に入った太陽の熱を逃さないようにする。
②夕方お部屋が冷えてから点火するのではなく、昼間の暖かさが残っているうちに点火して使用する。
③窓にはカーテンを付ける。
ただし、カーテンがストーブに近付かないよう注意する。
④すき間風の入るようなところは、目張りをする。

□各部の名称

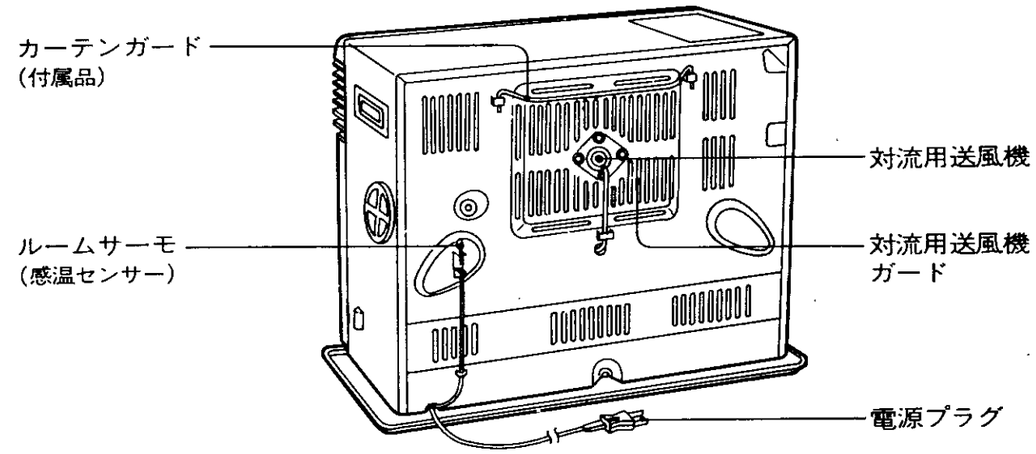
■外観図



■内部

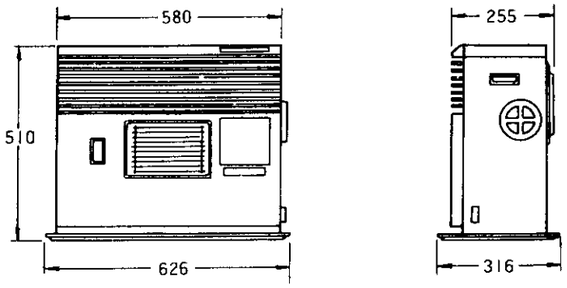


■背面



■外形寸法図

(単位mm)



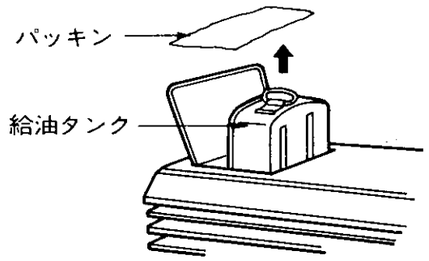
□使用方法

①使用前の準備

■包装材の取り外し

1 段ボール箱からストーブを取り出し、パッキン、テープ等の包装材を取り除いてください。

●給油タンク部にもパッキンが入っています。タンクふたを開き、給油タンクを保護しているパッキンを外してください。

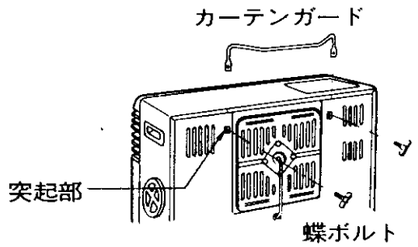


2 ストーブの側面に燃焼用フィルターが取付けられていることを確認してください。(9ページ参照)

●段ボール箱は、シーズンオフのストーブ保存用として利用してください

■カーテンガードの取付け

付属のカーテンガードは、図のようにストーブ背面の突起部に差し込んで、付属の蝶ボルトでしっかりと固定してください。



■周波数(Hz)別の準備(調整)

1 ご使用になる地域の電源周波数が50Hzの場合は

工場から出荷の際に50Hzに合わせてありますので、そのままご使用ください。

2 電源周波数が60Hzの場合は

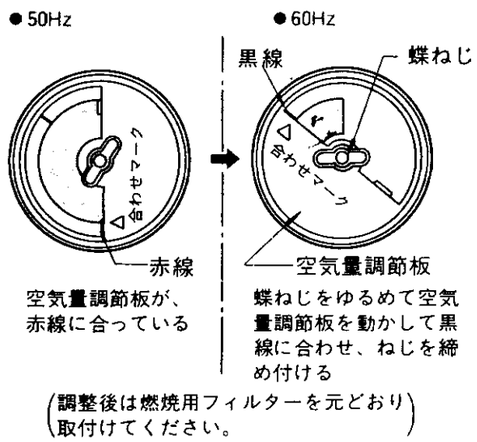
空気量調節板の調整が必要です。次の要領で調整してください。

空気量調節板は、ストーブの右側面にある燃焼用フィルターの内側にあります。

燃焼用フィルターを外し、器具内にある空気量調節板を、右図にしたがって調整してください。

●赤線、黒線の位置は、一台ごとに調整してありますから、器具によっては図の位置と多少ずれていることがあります。

●60Hz地域でこの空気量調節板の調整をしないで使用されると、燃焼用の空気が多くなりすぎて、点火しなかったり、途中で消火してしまったり、異常燃焼したりします。



(調整後は燃焼用フィルターを元どおり取付けてください。)

②給油

■使用燃料

燃料は必ず白灯油(JIS 1号灯油)をご使用ください。

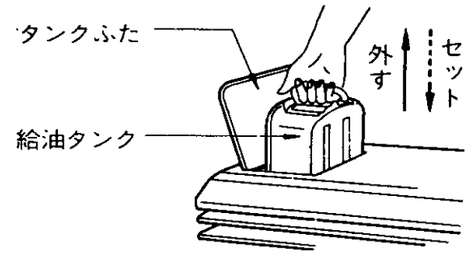
●ガソリン、シンナー、ベンジンなど、揮発性の高い油は、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

■給油の際の手順と注意

給油は必ず消火してから行い、燃焼中は給油タンクを取り出さないでください。

1 給油タンクを取り出してください。

給油口口金は油でぬれていますので、ボロ布などでふいて、油のしずくを落とさないよう注意してください。

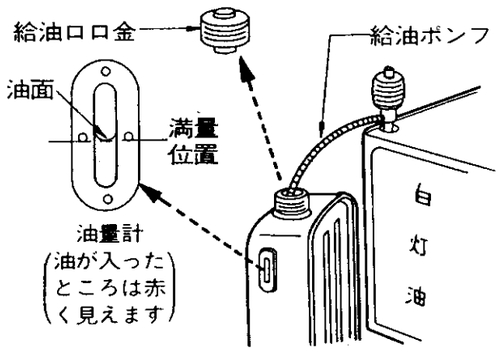


2 給油口口金を外し、給油してください。

口金を反時計方向に回して外し、市販の給油ポンプ等で給油してください。

●油量計の中央まで油面がきたら満量です。それ以上給油しないでください。

●外した口金には、ごみやほこりなどが付かないよう注意してください。



3 給油口口金をしっかりとしめ、口金側を下にして油もれのないことを確かめたのち、給油タンクをストーブにセットしてください。

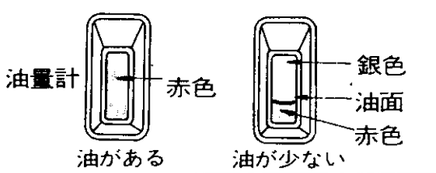
●給油タンクは落としたり、硬いものにぶつけたりしないよう注意してください。

●こぼした油は、すぐきれいにふきとってください。

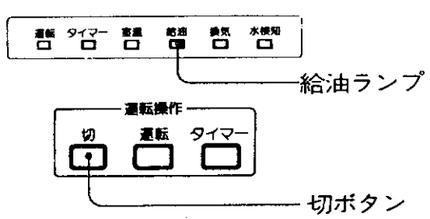
●給油タンク内の油は「強」燃焼時、約12時間20分でなくなります。

4 油がなくなると油量計が銀色に変ります。

●油量計窓から灯油の油面が見えなくなっても「強」燃焼時：約2時間40分、「弱」燃焼時：約4時間は燃焼しますが、この間に切ボタンを押して消火させ給油してください。



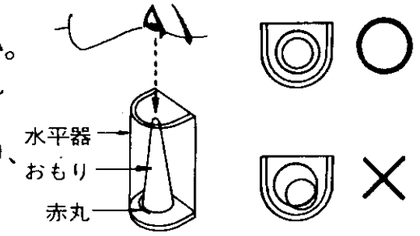
給油しないと消火15分前から給油ランプの点滅と、お知らせブザーで知らせます。更に給油しないでそのまま燃焼し続けますと、自動的に消火し、給油ランプが点灯に変ります。



使用方法 ―つづき―

③ 点火前の準備と確認

1 ストーブが水平になっているか確認してください。
右側面にある水平器を上から見て、おもりが赤丸印内にくるような場所に設置してください。
●赤丸印の範囲外で使用しますと、不完全燃焼したり、対震自動消火装置の誤作動の原因となります。



2 対震自動消火装置はセットする必要はありません。
ストーブの水平が保たれていれば自動的にセットされる構造になっています

3 電源を接続してください。
電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。
電源は一般家庭用100Vで、50Hz・60Hzどちらでもお使いいただけますが、60Hz地区の場合は空気量調節板の調整が必要ですので、ご注意ください。(11ページ参照)
●専用のコンセントを使用してください。
●電源プラグはしっかりと差し込み、また抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。

④ 点火

1 操作部ふたを開いてください。

2 運転ボタンを押してください。
運転ランプが点滅し、予熱が始まります。
●灯油をガス化するためにバーナーをあたためる時間で、室温により多少変りますが約5分必要です。

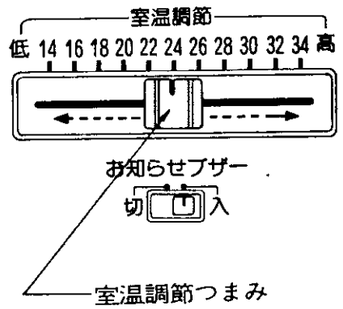
3 予熱完了後に自動的に点火し、運転ランプが点灯に変ります。

4 炎確認窓から炎の状態を確かめてください。
●点火初期のみ室温調節に関係なく2分間ほど「強」燃焼します。
●一回目で自動点火しなかったときは、約90秒後に再度自動点火動作します。
それでも点火しなかったときは、2～3分後に「切ボタン」を押し、もう一度「運転ボタン」を押してください。
●点火後まもなく火が消えるようなときは、燃焼が安定していないことが考えられます。室温調節つまみを一度「高」の方へ動かして点火し、15分ほど燃焼させてから室温調節を行ってください。

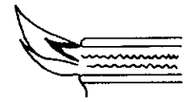
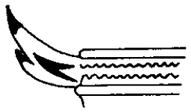
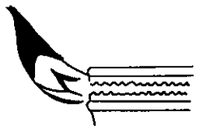
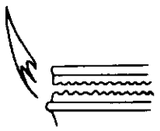
⑤ 室温調節と火力(熱量)調節

1 室温調節つまみを「高」←→「低」の範囲で、お好みの温度にしてください。
自動的に火力(熱量)調節を行って室温を調節する「ルームサーモ」が内蔵されています。

●設定温度を境に、自動的に「強」燃焼、「弱」燃焼をくり返します。
お部屋の大きさ、外気温などにより、上手に調節してください。
●室温調節の目盛は室内温度の目やすを示します。
周囲の物との関係で温風の流れが変りますので、お部屋の温度計の温度と一致しないことがあります。



2 炎確認窓から炎の状態を確認してください。
正常燃焼させるため、工場出荷時に調整してありますが、万一、赤火の長い炎や、炎が飛んだりしている際は、ストーブが傾いていることがありますので直してください。

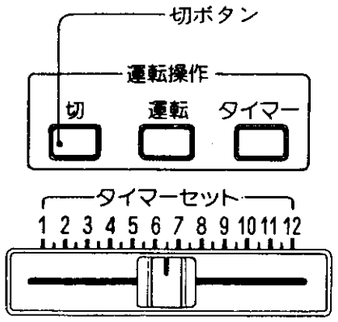
(1)正常燃焼……ブルーの炎 ○ 	(2)正常燃焼…炎の先端に少し赤火が出る ○ 
(3)大きな赤火が出る場合(赤火燃焼) ×  ●正面向ってストーブ左側が上がっている。	(4)炎が飛んだり浮いたりする場合(リフト燃焼)…においが出ます ×  ●正面向ってストーブ右側が上がっている。 ●空気量調節板を調整していない。

●炎の確認は、室温調節つまみを目盛「34」に合わせ、強燃焼にして確かめてください。
●上図の(3)、(4)いずれの場合も、水平器によりストーブの水平を確認してください。
また(4)のときは、空気量調節板が調整してあるかの確認もしてください。
●火力(熱量)の切換え時、炎が赤火になることがありますが、数秒で正常になります。
異常ではありません。
●ホコリ等を吸い込みますと炎の色が赤くなることがありますが、異常ではありません。

使用方法 ―つづき―

⑥消火

1 切ボタンを押してください。
運転ランプが消えます。



2 火が完全に消え、燃焼用送風機、対流用送風機が停止したことを確認してください。

- ２日以上家をあけるなど長時間使用しないときは、念のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 運転中に電源プラグを抜いて消火することは、おやめください。

■消火後再点火するときの注意

消火後再点火するときは、５秒程待ってから13ページ「点火」項にしたがい、再点火を行ってください。
（この５秒間は電気回路がリセットするのに要する時間で、５秒以下で再点火されますと白煙が出る場合があります。）

■停電時のご注意

燃焼中に停電しますと自動的に消火します。
通電後再運転する際は、運転ボタンを押してください。

ご注意

- 運転操作の各ボタンは、１つ１つ確実に押してください。
２つのボタンを一緒に押しますと、確実な動作をしないことがあります。
- 点火時や消火時には多少灯油のにおいが出ますが、異常ではありません。
また、消火後再点火する際にも多少においますが、異常ではありません。
- 停電時、対震自動消火装置や過熱防止装置がはたらいたとき、燃料切れになったとき、等にも多少灯油のにおいが出ますが、異常ではありません。
- 点火後、５分以内に消火しますと、白煙が出ることがありますが、異常ではありません。

ストーブを移動する際のご注意

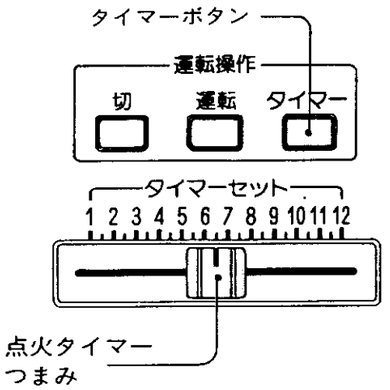
- **ストーブを移動する際は、必ず消火してください。**
燃焼したまま移動させると、炎が大きく立上がったり異常燃焼し、大変危険です。
- **移動する際は、静かに持ち上げて水平に移動してください。**
揺らしたり、傾けたりして移動すると、油受けざらから灯油が流れ出し、火災の危険やにおいの原因となります。
（**消火した後でも揺らしたり、傾けたりしますと、移動後再点火した際赤火の出る異常燃焼になることがありますが、しばらくそのままお待ちください。まもなく正常燃焼に戻ります。**）

⑦点火タイマーの使用方法

自動的に運転を開始したいときに、あらかじめ点火タイマーをセットしてください。

1 点火タイマーのセット

❶点火タイマーつまみを希望の目盛に合わせてください。
タイマーセットの目盛は、運転を開始するまでの時間数を表示してあります。
例えば目盛「８」に合わせると、８時間後に自動点火することを意味します。



❷タイマーボタンを押してください。
タイマーランプが点灯します。

2 タイマー運転

- **セットした時間になりますと、タイマーランプは点灯したままで運転ランプが点滅をはじめます。**
予熱(約５分間)完了後に、運転ランプが点灯に変り点火します。
- **タイマー点火後そのまま1時間以上お使いいただくときは、運転ボタンを押してください。**

点火後約１時間しますと、安全性とムダな暖房を防ぐため自動的に消火します。
なお、消火する10分前に「お知らせブザー」が２回鳴り、タイマーランプが点滅に変って消火することを知らせます。
（消火後も、タイマーランプが点滅を続け、タイマーで自動的に消火した事をお知らせします。）
そのまま運転を続けたい場合は、運転ボタンを押してください。

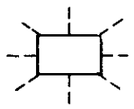
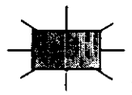
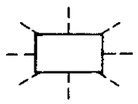
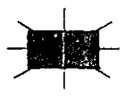
点火タイマー使用上のご注意

- 点火タイマーつまみをセットしただけでは運転を開始しませんので必ずタイマーボタンを押してください。
- セット時間を変更したい場合は、点火タイマーつまみを合わせなおし、あらためてタイマーボタンを押してください。(タイマーボタンを押さないと、変更前にセットしてあった時間でタイマー運転します。)
- 点火タイマーつまみは、時間の経過にともなって動くものではありません。
- 運転中にタイマーボタンを押すと、消火し、点火タイマーのセットになります。
- 点火タイマーをセットしたあと
  ①再度タイマーボタンを押しますと、あとで押したときからセットした時間をはかりはじめます。
  ②すぐに運転したいときは、運転ボタンを押してください。
  ③タイマー運転の必要がなくなったときは、切ボタンを押してください。
  （タイマーのセットは解除されます。）
  ④停電がありますと、停電時安全装置がはたらき、再通電されてもタイマーは動作しません。
  この場合は、点火タイマーをセットしなおしてください。

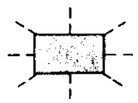
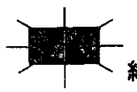
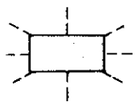
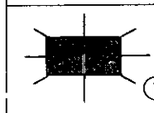
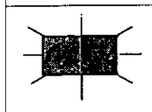
使用方法 ―つづき―

⑧ 各ランプ表示とお知らせブザーについて

お知らせブザーは、①給油タンクが空になりあとわずかで消火するとき、②換気不足になったとき、③油受けざらに水がたまったときに鳴ります。
また、タイマー点火時、１時間で自動消火する10分前にも鳴ります。

運転ランプ（緑）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	
	 点滅 バーナーの予熱中です	（処置） このまま約５分間お待ちください。（点火時）
	点灯 運転中です	
タイマーランプ（緑）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	
	 点灯 タイマー動作中です	
	 点滅 自動消火する10分前の予告 お知らせブザーが２回鳴る	（処置） ●続けて使用したい場合は運転ボタンを押してください。 ●消火したい場合は切ボタンを押してください。
	タイマー点火後１時間燃焼して自動消火した。	●あらためて運転したいときは運転ボタンを押してください。 ●使用しない場合は、切ボタンを押してください。（タイマーランプは消えます。）
室温ランプ（赤）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	
	 点灯 室温調節つまみの位置よりお部屋の温度が高くなっている	（処置） ●熱いとお感じのときは 切ボタンを押して消火してください。 ●まだじゅう分な暖かさでないときは 室温調節つまみを「高」の方へ、ランプが消えるまで動かしてください。

●お知らせブザーを鳴らさないようにしたいときは、操作部のお知らせブザースイッチを「切」にしてください。この場合はランプ表示だけになります。

給油ランプ（赤）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	
	 点滅 お知らせブザーが鳴る 給油タンクが空になり、消火15分前の予告	（処置） 切ボタンを押して消火し、給油してください
	 点灯 給油予告したが給油しなかったため油がなくなって消火した	（処置） 給油してください。 （給油ランプは消えます）
換気ランプ（赤）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	換気ランプに関係なく１時間に１～２回換気してください。
	 点滅 お知らせブザーが鳴る 長時間換気しないで運転のためお部屋の空気が異常状態に近づいた。〔換気不足の予告〕	（処置） 窓を開けるなどして換気してください。 ●換気不足でお部屋の空気中の酸素が不足してくると換気ランプが点滅し、お知らせブザーが鳴って換気をうながします。
	 点灯 ①お部屋の空気が異常状態になり消火した	（処置） ●切ボタンを押して換気ランプを消し、窓を開けるなどしてじゅう分換気してください。 ●あらためて運転したいときは運転ボタンを押してください。
	②何らかの原因で点火ミスや途中で消火したため炎検知装置が働いた	（処置） ●あらためて運転ボタンを押してください。 点火後しばらくして消火したときや、点火せずに換気ランプが点灯したときは、23ページを参照して「点火しない」の項の処置をしてみてください。
水検知ランプ（赤）	運転 タイマー 室温 給油 換気 水検知	
	 点灯 お知らせブザーが鳴る 油受けざらに水が混入した	（処置） 油受けざらの水抜きをしてください。（21ページ参照）ランプは消え、ブザーも止まります。

■安全装置

■過熱防止装置

ご使用中、何らかの原因でストーブが過熱したときは「過熱防止装置」(サーモスタット)が作動し、灯油の供給を止めて消火します。(このときは全てのランプが消えます。)

●過熱防止装置が作動する(ストーブの過熱)原因は、①対流用送風機がカーテン等でおおわれている、②ストーブと壁面との間が狭い、③温風吹出口前方に障害物がある、④対流用送風機ガードがホコリ等で目詰まりしている、等です。

●上記の原因を取り除き、ストーブが冷えてから点火操作をしてください。

●原因を取り除いて点火操作をしても、再度過熱防止装置が作動する場合は、対流用送風機の故障等が考えられますので、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■炎検知装置(点火安全装置)

点火ミスや炎が小さくなったり、換気せずに長時間使用して室内の酸素不足で炎が飛んだりすると、「炎検知装置」が作動して消火します。(このとき「換気ランプ」が点灯します。)

●このときは、空気調節板の調整は正常か、燃焼用フィルターの目詰まりはないか確認し、お部屋の換気をしてから点火操作してください。

●原因がわからないときは、お買い求めの販売店に点検修理を依頼してください。

■停電時安全装置

ご使用中停電しますと「停電時安全装置」が作動し、灯油の供給を止めて消火します。

●停電が回復しても自動的には再運転しません。

したがって再点火する際は、点火操作をしなおしてください。

■対震自動消火装置

地震や強い衝撃を受けたとき「対震自動消火装置」が作動し、電気回路および灯油の供給を遮断して、消火します。(このときは全てのランプが消えます。)

●対震自動消火装置は自動復帰する構造になっていますが、運転中に一度作動すると、安全のため自動的には再運転しません。

したがって、再点火する際はあらためて点火操作しなおしてください。

■電流ヒューズ

万一過電流が流れたときは「電流ヒューズ」が溶断して、運転を停止します。
(このときは運転ボタンを押しても運転できません。)

●電流ヒューズが溶断したときは、必ずお買い求めの販売店に依頼して原因をよく調べてもらい、適切な処置をしたうえでヒューズ交換してもらってください。

■日常の点検・手入れ

■点検・手入れの前に、必ず電源プラグをコンセントより抜きとってください。

■対震自動消火装置は、絶対に分解しないでください。

■周囲の可燃物の点検

ストーブの周囲に紙や衣類、プラスチックなど、燃えやすいものが置いてないか確認してください。なお、8ページに示す寸法内に、可燃物などがないよう注意してください。

■油もれ、油だまりの点検

置台上に油だまりがないか、またフロントカバーを外したときに送油管接続部等に油もれがないか、乾いた指で触れて点検し、もし油もれがある場合はこぼれた油をきれいにふきとり、販売店に依頼して油もれか所を修理してもらってください。

●置台上やストーブの周囲に灯油がこぼれていますと、危険ですし、またにおいもしますので、点検、手入れのあとは乾いた布できれいにふきとってください。

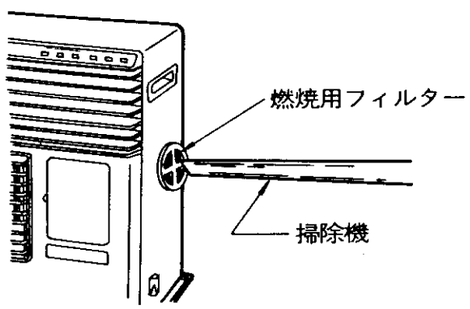
■燃焼用フィルターのお手入れ

燃焼用フィルターがごみやほこりで目詰まりすると、不完全燃焼の原因となり運転が自動的に停止することがあります。1週間に1回以上は次の要領で掃除してください。

●掃除機などで燃焼用フィルターのホコリを取り除いてください。

●汚れがひどいときは、取り外して掃除してください。(水洗いもできますが、水洗いをしたときは完全に乾かしてください。)

●外したときは必ず元どおり取付けてご使用ください。外したままで使用されますと、異常燃焼の原因となります。



■オイルフィルターのお手入れ

給油タンクの下に油受けざらがあり、この中に灯油中のごみを取り除くための「オイルフィルター」が入っています。

このオイルフィルターがごみなどで目詰まりすると、油のとおりが悪くなり、燃焼に悪い影響を与えますので、給油タンクを取り出した都度点検し、目詰まりしているときは次の要領で掃除してください。

❶給油タンクを取り出してください。

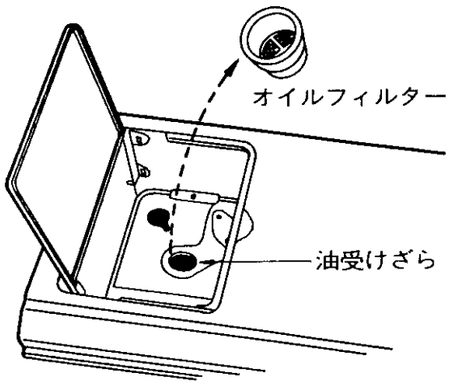
❷油受けざらの中にある「オイルフィルター」を取り出してください。

●その際オイルフィルターにたまったごみを、油受けざら内に落とさないよう注意してください。

❸オイルフィルターにたまったごみを捨て、きれいな白灯油でよくすすぎ洗いしてください。

❹元どおり取付けてください。

(取付けないと、油が流れず、運転できません。)



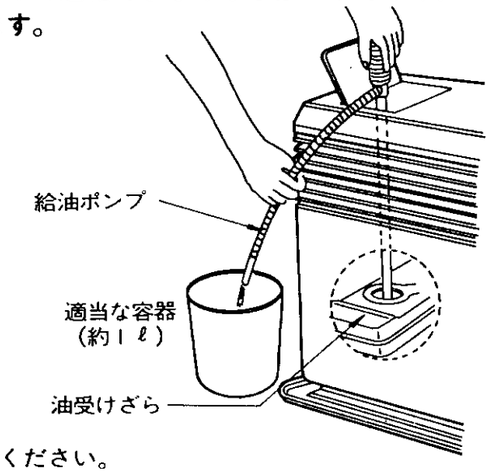
日常の点検・手入れ―つづき―

■油受けざらの水抜き

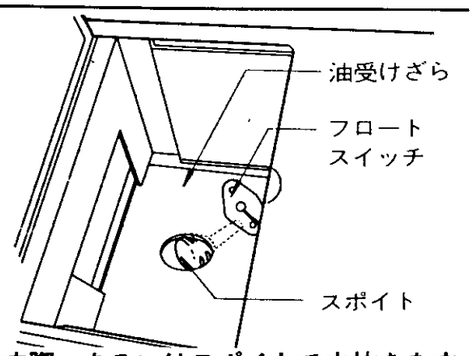
「お知らせブザー」が鳴って、水検知ランプ(赤色)」が点灯した場合は、油受けざらに水がたまっていますので抜き取る必要があります。
そのまま放置しておきますと、送油経路が故障して運転できなくなるばかりでなく、油受けざらがサビて、寿命を縮めることになります。
次の要領で水抜きを行ってください。

1 **給油タンクを取り出し、油受けざらからオイルフィルターを取り出してください。**

2 **図のように市販の給油ポンプを油受けざらの右後方に差し込み、油受けざらの給油タンク挿入部より水(灯油も)を抜きとってください。**
●このときストーブの右端を台の上にのせ、灯油が油受けざらに集まるようにして行ってください。
なお、あまり高い台や不安定な台にはのせないでください。



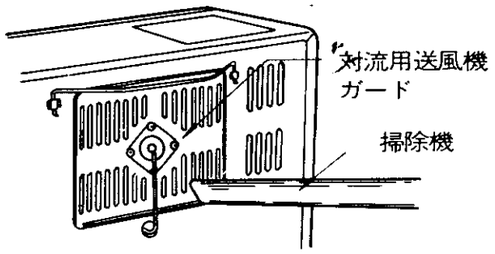
3 **給油ポンプでは完全に抜けませんので抜けきれなかった水は付属のスポイトで抜いてください。**
●スポイトで抜く際は、ストーブの前面を台にのせ、油受けざらの後の方に水が集まるようにして、フロートスイッチ側にスポイトを深く差し込んで水を抜いてください。
●念のため油受けざら内に乾いたボロ布を入れて、内部に付着した水もふきとってください。



●給油ポンプで水抜きした後給油ポンプを抜き出す際、あるいはスポイトで水抜きをする際は、油受けざら上や、ストーブ内に油をこぼしたり、油のしずくを落としたりしないよう注意してください。もし油をこぼしたときは、ぎれいにふきとってください。

■対流用送風機ガードのお手入れ

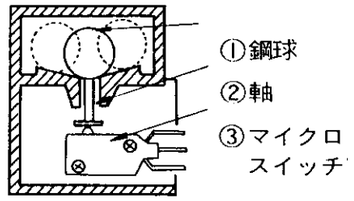
対流用送風機のガードにごみやほこり等が付きますと、温風量の低下や、ストーブ内の過熱による過熱防止装置の作動等がおこります。
●1週間に1回以上、掃除機などで対流用送風機ガードのごみやほこりを吸いとってください。



■対流用送風機、燃焼用送風機とも無給油式のモーターを使用していますので、注油(給油)の必要はありません。

■対震自動消火装置の点検・手入れ

1 各部の名称



2 作動のしくみ
ストーブに地震など衝撃が加わると鋼球①が破線方向に移動し、軸②が押し上げられてマイクロスイッチ③が「切」となり、電磁ポンプ・燃焼用送風機が止まり、灯油が流れず、消火します。

3 点検・手入れ(2ヶ月に1回程行ってください)
ストーブに灯油がない状態で運転ボタンを押し(このとき給油ランプのみ点灯している)。ストーブを前後左右にゆすってみて、給油ランプが消えることを確かめてください。

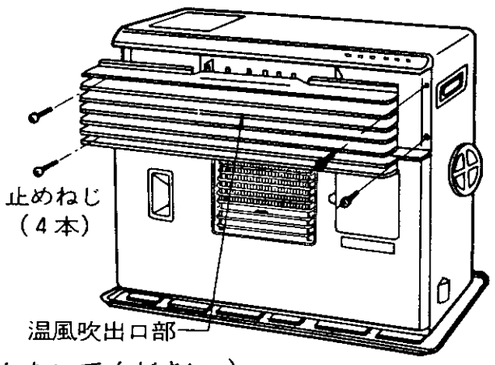
■ストーブ表面の掃除

ストーブ外側部分のよごれは、少し湿らせた布できれいにふきとり、その後乾いた布で仕上げふきしてください。
なお、化学ぞうきんでふくのはおやめください。色があせたり、つやがなくなったりすることがあります。

ご注意 **バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。点検・修理等には高度の技術を要しますので、必ずお買い求めの販売店にご依頼ください。**

⊙異物が入った場合などの分解方法

ストーブの内部に異物が入りますと、故障や火災の原因となります。
特にお子様が温風吹出口から紙くずやプラスチック等を入れることがありますのでじゅう分注意してください。
もし異物が入った場合は、ストーブがじゅう分冷えてから電源プラグを抜いて、温風吹出口部を外して取り除いてください。
●温風吹出口部は、左右に各2本ある止めねじを外せば、取り外せます。
●中に入った異物などを取り出しましたら、元どおり組立ててください。
(温風吹出口部を外したままでは絶対使わないでください。)



■故障・異常の見分け方と処置方法

燃焼のぐあいの悪いときは、つぎの表を参考にして調整、処置してください。
ご不審な点がありましたらただちに運転を停止し、お買い求めの販売店にご相談ください。

現象／原因	油漏れする	白煙が出てすぐ止まる	使用中室内がにおう	点火しない	運転ランプが点灯しない	使用中に消火する	黄炎またはススが出る	処置方法	参照ページ
電源プラグをコンセントに差し込んでいない				●	●			電源プラグをコンセントに差し込む	13
停電中である				●	●			停電復帰後点火しなおす	15
給油タンクに灯油がない				●	●	●		給油する	12
油受けざらに水が入っている		●		●		●		水を抜く	21
温風吹出口がふさがれている						●		温風吹出口のしゃ閉物を取り除く	—
ストーブ周囲の隙間が適正でない						●		周囲の隙間を適正にする	8
給油タンクの給油口口金がゆるんでいる	●							給油口口金をしっかりとしめる	12
燃焼用フィルターの目詰まり		●	●	●		●		掃除する	20
燃焼用の空気量調節板の調整が適切でない		●	●	●		●		空気量調節板を調整する	11
ストーブが傾いている		●	●	●	●	●	●	水平器によりストーブの水平を確かめる	13
油配管の締付けが不完全	●							販売店に依頼し、確実に締付ける	—
加圧ホースの折れ、接続不良		●	●	●				販売店に修理を依頼する	—
油量調節器の空気だまり		●		●		●		点火操作を2～3回くり返す	13
電磁ポンプの故障		●		●		●		販売店に修理を依頼する	—
炎検知装置の故障				●		●		販売店に修理を依頼する	—
点火器の故障		●		●				販売店に修理を依頼する	—
燃焼用送風機、対流用送風機の故障		●		●		●	●	販売店に修理を依頼する	—
灯油が変質している		●	●	●			●	販売店に修理を依頼する	—

■サービスをお申しつけになる前に

次のような現象の場合は故障ではありません。
サービスをお申しつけになる前に、もう一度確認してください。

	現象	理由
点火時	初めて使用するとき、煙やにおいが出る	耐熱塗料やほこりなどが焼けるためで、異常ではありません。
	燃焼開始時、炎が赤火になる	最初は濃いガス化石油を出して点火を確実にするためで、異常ではありません。 3～5秒ぐらいで正常燃焼になります。
	点火する前に白煙が出る	ガス化した石油に点火し、バーナ全周に炎が回るまでの間出るもので、異常ではありません。
	すぐに点火しない	石油ガス化方式のため予熱時間が約5分程度必要です。また初めて運転する際は、灯油がじゅう分回るまでに時間がかかりますので、2～3回点火操作してください。
燃焼時	炎の状態が悪く、完全燃焼しない、においがする	●ストーブの水平を確認してください。 ●油受けざらに水がたまっていることが考えられます。 （水抜きを行ってください） （水検知ランプが点灯し、お知らせブザーが鳴る） ●酸素が不足しています。（お部屋の換気をしてください） （換気ランプが点滅し、お知らせブザーが鳴る） ●燃焼用フィルターにごみやほこりが付いています。 （掃除してください） （換気ランプが点灯する）
	炎がだんだん小さくなり消えるか、点火してもすぐに消える	
	燃焼中に突然炎が消え、キャビネットの上面が熱くなっている	対流用送風機ガードが、カーテン等でおおわれていたり、ホコリ等で目詰りしていることが考えられますので、これらを処置した後、再点火操作をしてください。
	点火・消火・熱量切換わり時に、キシミ音が出る	ダクト部の膨脹、収縮による音で、異常ではありません。

年に一度は専門家に点検を!!

日立石油ファンヒーターは、きびしい品質管理のもとに生産しておりますが、燃焼部分は非常に高温となる過酷な条件で使用されるため、長期間ご使用になりますと点検が必要です。
したがって、万一の事故などを未然に防止するためと、快適にご使用いただくために、シーズンはじめか、または保管前のどちらかに販売店に点検を依頼されることをおすすめします。（ただし点検は有料となります）

■部品交換のしかた

交換部品(消耗部品)は、ストーブをお買い求めの販売店でお求めください。

1 燃焼用フィルター

燃焼用フィルターが破損した場合は、「日立石油ファンヒーターOVF-360D形用燃焼用フィルター」をお求めのうえ、20ページ「燃焼用フィルターのお手入れ」にしたがって交換してください。

2 オイルフィルター

オイルフィルターが破損した場合は、「日立石油ファンヒーターOVF-360D形用オイルフィルター」をお求めのうえ、20ページ「オイルフィルターのお手入れ」にしたがって交換してください。

3 赤熱体

ガラス面の内側にある赤熱体の変形が大きくなったり、焼損した場合（強燃焼時でもガラス面が異常に暗い）は、「日立石油ファンヒーターOVF-360D形用赤熱体」をお買い求めの販売店に依頼して交換してください。

保 管(長期間使用しない場合)

おしまいになるときは、次の要領でお手入れしてください。

1 油を抜きとる

●給油タンクは空にして、内部にごみ　水(ドレン)が残らないようきれいな灯油でよく洗い、よく乾燥させてください。

●油受けざら内には水がたまっていることがあります。
21ページの「油受けざらの水抜き」を参照して、水(灯油も)抜きを行ってください。

2 ストーブの清掃

●燃焼用フィルター、オイルフィルターの掃除を行ってください。(20ページ参照)

●ストーブ外側のよごれやほこり等を、きれいに掃除してください。

●ストーブ内部の清掃も必要です。ただし内部の清掃はお買い求めの販売店に依頼してください。(内部の清掃は有料となります)

●ぐあいの悪いところは、保管前に修理しておいてください。

3 保　管

●ストーブをお買い求めになったときのダンボール箱等で包装し、湿気のない場所に保管してください。

●ストーブを逆さにしたり、横にしたり、傾けたりした状態で保管することは、絶対にしないでください。
次シーズンに使用できなくなることがあります。

■仕　様

形式の呼び		OVF-360D
種類・形式		気化式、強制対流形
点火方式		高圧放電点火・自動点火
使用燃料		白灯油(JIS 1号灯油)
発熱量(入力)		3,200kcal／h
燃料消費量	最大	0.388ℓ／h
	最小	0.242ℓ／h
タンク容量		4.8ℓ
燃焼持続時間		約12.4時間
外形寸法(置台を含む)		高さ510㎜ 幅626㎜ 奥行316㎜
重量		17.5㎏
電源		単相100V・50／60Hz
電流ヒューズ		7A
消費電力		点火時 180／180W　燃焼時 98／96W (50/60Hz)
燃焼用送風機		(モータ)隈取形、(ファン)ターボファン
対流用送風機		(モータ)隈取形、(ファン)プロペラファン
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置・電流ヒューズ 停電時安全装置・炎検知装置
付属品		スポイト、カーテンガード(蝶ボルト付)

■配線図